



## 今週の T2 経済レポート

2020年9月18日号

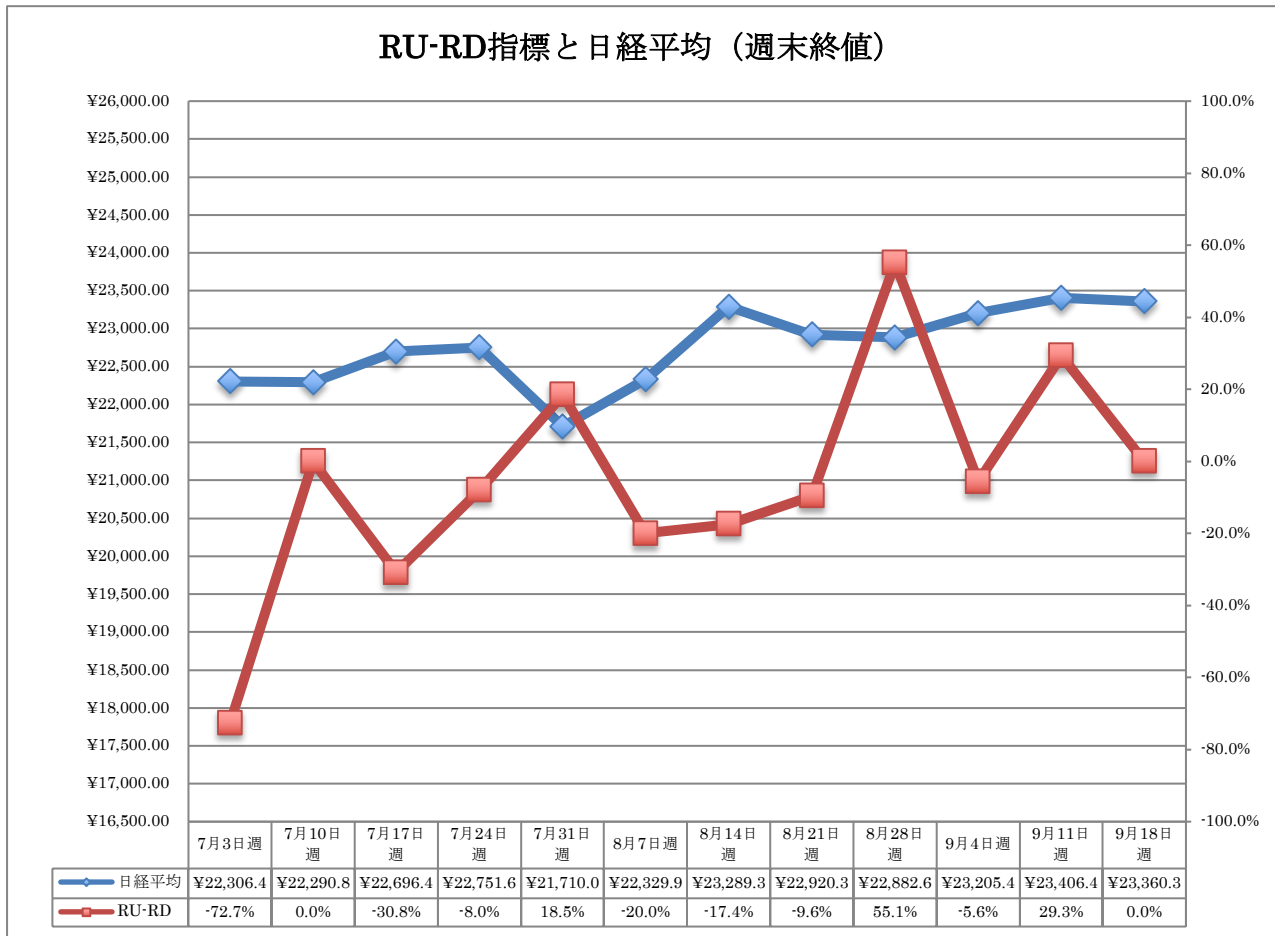
### ■■■ 市場ウオッチ ■■■

#### <先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は堅調相場が継続する可能性があります。今週(9/14~9/18)の相場を占う『RU-RD指標』は9月4日週は+0.0%と実質2週連続でプラス圏となったことで堅調相場が継続するかたちです。さらに来週(9/21~9/25)の相場を占う9月11日週は+12.9%と実質3週連続でプラス圏となったことで堅調相場がさらに継続する可能性があります。11日のメジャーSQ終了で投機筋の買い支えが一巡、米国で追加支援策がまとまらないことで米株の不透明感が高まっていることなどで仮に、日本株にも影響があれば、新政権への期待感も高まってきていることからそれは良い投資機会であることになりません。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』は、8月7日週-7.1%と10週振りにマイナス圏に陥った後、8月14日週+31.4%→8月21日週+32.9%→8月28日週+35.7%→9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%と、今年1月20日週以来の上限ゾーンを達成し、高水準をキープしています。以前から『この調整が終了するといずれ米国市場を追うかたちで天井圏を示唆する+40%の上限ゾーンを目指す再上昇が予測されます。いつそれが始まるのかを注目する段階に移っています。』と指摘してきましたが、それが実現し、相場の天井形成の入り口に立ったことを示しています。

今週は、経済指標では、国内は、14日に7月第三次産業活動指数、16日に8月貿易統計、18日に8月全国消費者物価指数、8月訪日外客数、一方、海外では、15日に米9月NY連銀製造業景気指数、米8月輸出入物価、米8月鉱工業生産、中国8月工業生産、中国8月小売売上高、16日に米8月小売売上高、17日に米8月住宅着工件数、米8月建設許可件数、米9月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数、18日に米4-6月期経常収支、米9月ミシガン大学消費者マインド指数が予定されています。16日発表の8月小売売上高は前月比+1.0%と、7月実績の+1.2%を下回る可能性があります。このほかのイベント・トピックスとしては、国内では、14日に自民党総裁選の投開票 16日に日銀金融政策決定会合(17日まで)、17日に黒田日銀総裁会見、一方、海外では、15日にFOMC(16日まで)、16日にパウエルFRB議長会見が予定されています。FRBは9月

15-16 日に FOMC を開催し、現行の政策金利を据え置く公算。同時に、インフレ上昇率が一時的に 2% 超となるのを容認した金融政策決定の新たなアプローチを決定するとみられます。」とコメントしました。



8月28日週	9月4日週	9月11日週	9月18日週
¥22,882.65	¥23,205.43	¥23,406.49	¥23,360.30
55.1%	-5.6%	29.3%	0.0%

先週の日経平均は、高値 23582 円(9 月 14 日)・安値 23272 円(9 月 17 日)と推移、3 週間振りに前半高・後半安の弱いかたち。先週は、英大手製薬会社アストラゼネカがウイルスワクチンの治験を再開したと発表したことが好感され上値目標値目前まで上昇しましたが、注目の FOMC では予想通り大規模緩和策が据え置かれるとともに 2023 年末までのゼロ金利の長期化が示されたものの、追加の量的緩和については明示されなかったことに加え、1ドル=104 円台を付ける円高進行も嫌気されて反落、ただ、菅新政権への高い支持率から国内政治のリスクを意識した売りも限定的で、週間ベースでは-46 円安と小幅反落で終了しています(先週予告していた上値メド 23647 円～24119 円(+2%かい離)//下値メド 22954 円～22494 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、9 月 14 日に 23500 円大台替えで仕切り直しが入りました。

24000 円大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、23000 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えては、8 月 13 日に 23000 円大台替えて仕切り直しが入りました。24000 円大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、22000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、8 月に 23000 円大台替えて仕切り直しが入りました。24000 円大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、22000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期↑、長期↑となり、短中長期と同方向となり、強含みのかたちに変化しました。

日経平均を左右するNYダウは、高値 28364ドル(9月16日)・安値 27487ドル(9月18日)と推移、3 週連続で前半高・後半安の弱いかたち。先週は、9 月 15-16 日に開かれた米連邦公開市場委員会(FOMC)の会合で政策金利(FF金利)の誘導目標を0.00-0.25%に据え置くことが賛成多数で決定、早期追加緩和の思惑は後退したものの現行の政策金利は 2023 年末まで維持される可能性があることから上値目標値目前まで反発、ただ米商務省が「ティックトック」と「ウィーチャット」の米国内でのダウンロードを 20 日から禁止し、米国での事業売却がまとまらない場合、11 月 12 日に営業停止になると発表したことから米中関係の悪化を懸念して下値目標値目前まで下落、週間ベースで-8ドル安と小幅ながら 3 週間続落で終了しています(先週予告していた上値メド 28396ドル~28963ドル(+2%かい離)//下値メド 27313ドル~26766ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えて、9 月 14 日に 28000ドル大台替えて仕切り直しが入りましたが、18 日に逆に、27500ドル大台割れで下落スタート、21 日に 27000ドル大台割れでカウントダウンの下落局面入りに 3 日間、従って、24 日までに 26500ドル大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、27500ドル大台替えて仕切り直しが入ります。中期の方向を示す月ベースでは、9 月 4 日に 28000ドル大台割れで下落スタート、9 月 21 日に 27000ドル大台割れでカウントダウンの下落局面入りに 17 日間、従って、10 月 8 日までに 26000ドル大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、28000ドル大台替えて仕切り直しが入ります。長期の方向を示す月ベースでは、9 月に 27000ドル大台割れで下落スタートとなりました。26000ドル大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、28000ドル大台替えて仕切り直しが入ります。これで短期↓、中期↓、長期↓、となり、短・中・長期の方向が全て下向きとなり、弱含みのかたちに変化しました。

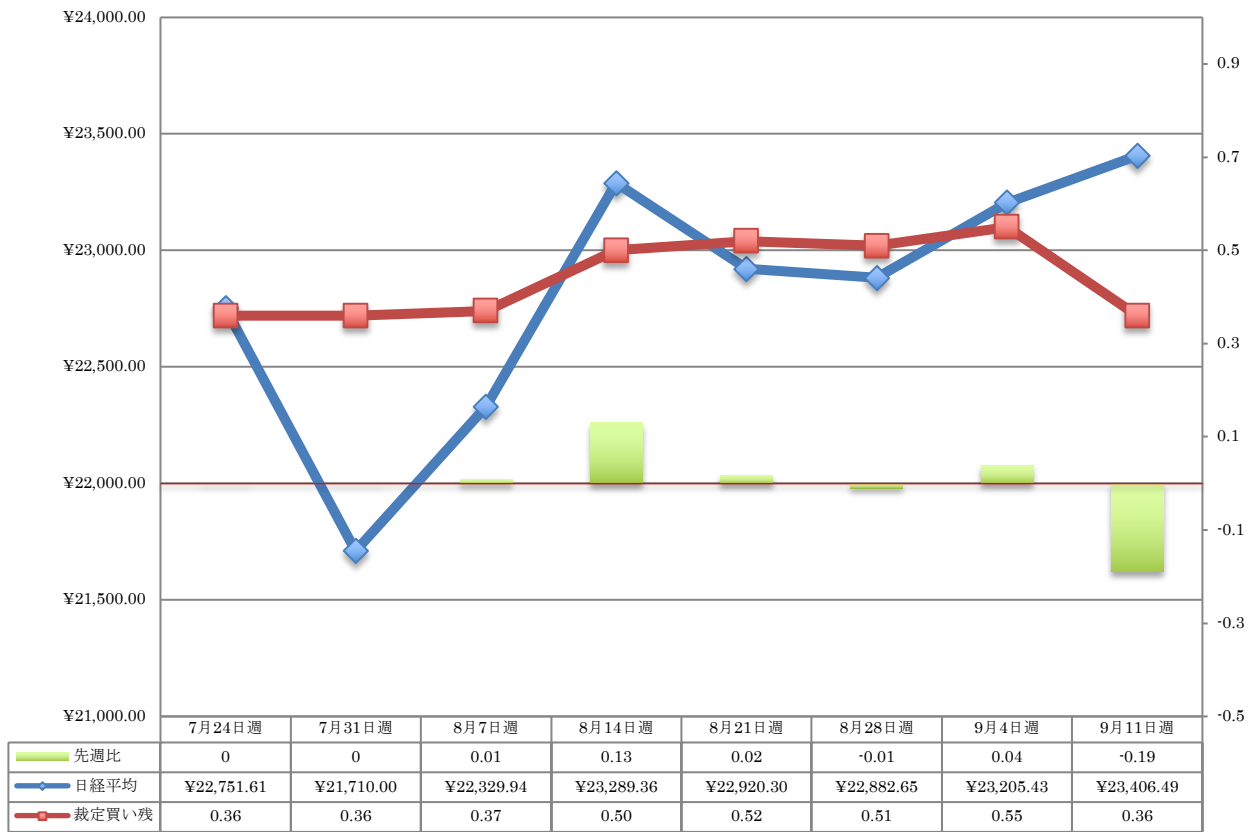
一方、為替は、ドル・円が 106.20 円~104.25 円(先週予告していた上値メド 106.76 円~107.82 円(+1%かい離)//下値メド 105.24 円~104.18 円(-1%かい離))と推移、下値目標値を達成し、実質 3 週間振りに円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.1899~1.1735(先週予告していた上値メド 1.1958~1.2077(+1%かい離)//下値メド 1.1763~1.1645(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成する 3 週連続のドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、125.89 円~123.24 円(先週予告していた上値メド 126.62 円~127.88 円(+1%かい離)//下値メド 124.66 円~123.41 円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を下回り、2 週連続の円高・ユーロ安。前の週のドル>円>ユーロから円>ドル>ユーロに変化しました。米連邦準備制度理事会(FRB)による追加緩和への期待が後退、さらに欧州連合

(EU)と英国の通商協議が難航していることからユーロ売り・米ドル買いがやや活発となったかたちです。

## <裁定買い残・裁定売り残>

前の週と異なり大幅減少。ただ、8月10日週に記録した1000億円以上の増加はコロナショックで株価が3月23日週以来で大きな変化の兆し。一時、今年1月以来の7000億円台に回復し、その反動減が続いていましたが終了のサインかと思われます。一方、「裁定売り残」は、前の週比+474億円の1兆7441億円と、2週連続で増加。ただ、一時の買い戻しの勢いが鈍り日経平均は調整中、まだ、本格的な買い戻しは動き始めていない状況です。再度、買い戻しの勢いが加速する局面にいつ入るのかを注目する段階です。過去の「裁定買い残」の推移を振り返ると、18年9月14日週～28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、18年5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000円億円台を回復して18年10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18年10月1日週～10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は5000億円と18年2月5日週以来の急減で、やはり18年10月からの暴落は「VIXショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

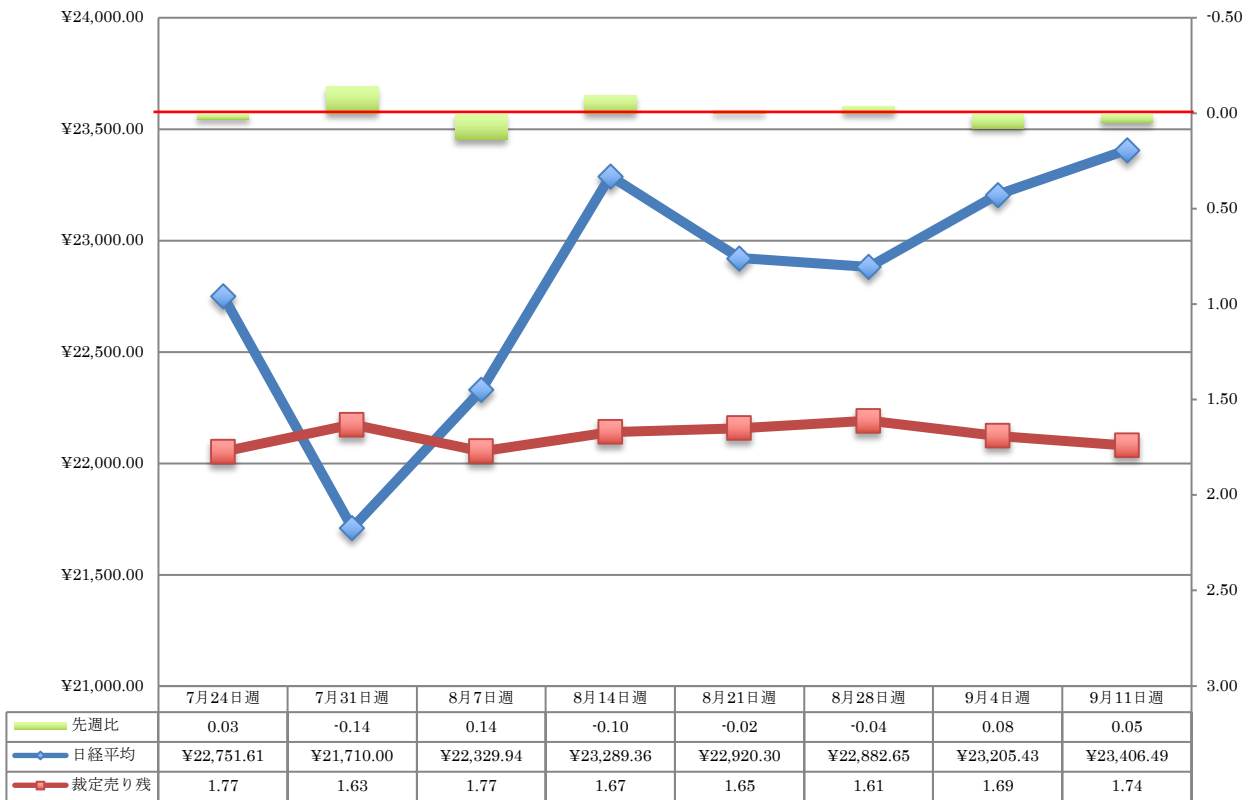
### 裁定買い残と先週比



8月21日週	8月28日週	9月4日週	9月11日週
¥22,920.30	¥22,882.65	¥23,205.43	¥23,406.49
0.52	0.51	0.55	0.36
0.02	-0.01	0.04	-0.19

単位:兆円

### 裁定売り残と先週比



8月21日週	8月28日週	9月4日週	9月11日週
¥22,920.30	¥22,882.65	¥23,205.43	¥23,406.49
1.65	1.61	1.69	1.74
-0.02	-0.04	0.08	0.05

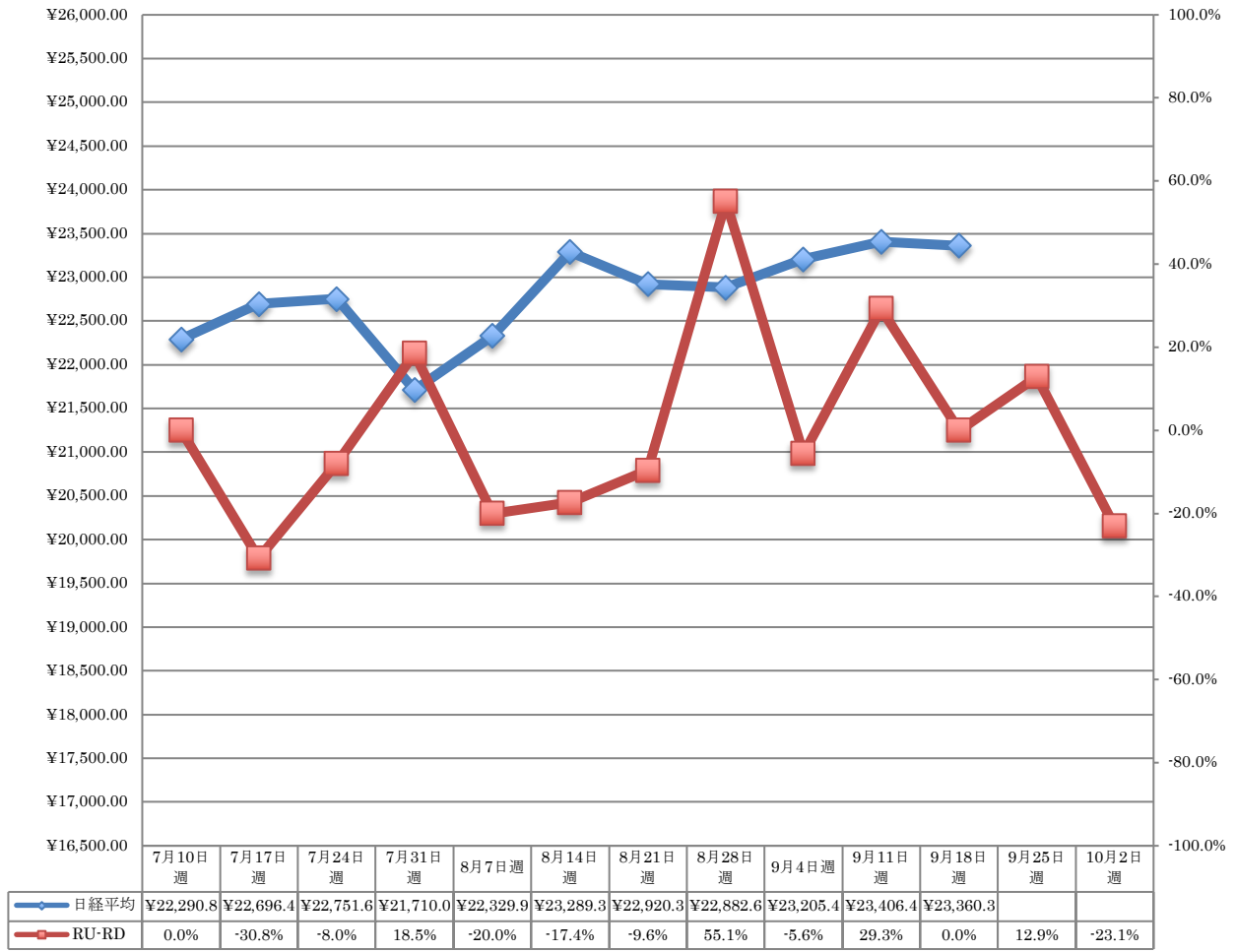
単位: 兆円

## <今週のマーケットの見通し>

今週は堅調相場がさらに継続する可能性があります。今週(9/21~9/25)の相場を占う『RU-RD 指標』は9月11日週は+12.9%と実質3週連続でプラス圏となったことで堅調相場がさらに継続する可能性があります。ただ、来週(9/28~10/2)の相場を占う9月18日週は-23.1%と実質4週間振りにマイナス圏に陥ったことから急落調整の可能性があります。11日のメジャーSQ終了で投機筋の買い支えが一巡、米国で追加の経済支援策がまとまらないことで米株の不透明感が高まっていること、さらに来週末には米雇用統計発表が控えていることで仮に日本株にも影響があれば、歴代3位の高い支持率となった新政権への期待感や衆院解散・総選挙への思惑からそれは良い投資機会であることに変わりありません。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」-「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』は、8月7日週-7.1%と10週間振りにマイナス圏に陥った後、8月14日週+31.4%→8月21日週+32.9%→8月28日週+35.7%→9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%と、9月4日週に今年1月20日週以来の上限ゾーンを達成後、高水準をキープしています。以前から『この調整が終了するといずれ米国市場を追うかたちで天井圏を示唆する+40%の上限ゾーンを目指す再上昇が予測されます。いつそれが始まるのかを注目する段階に移っています。』と指摘してきましたが、それが実現し、相場の天井形成の入り口に立ったことを示しています。現在は、天井圏形成前の足踏み状態の段階であり、いずれ+40%超の上限ゾーンを突破する近未来が待っています。

今週は、経済指標では、国内は、23日に7月全産業活動指数、8月コンビニエンスストア売上高、24日に7月14・15日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨、海外では、21日に米8月シカゴ連銀全米活動指数、22日に米8月中古住宅販売件数、23日に米7月FHFA住宅価格指数、24日に米8月新築住宅販売件数、25日に米8月耐久財受注の発表が予定されています。25日発表の米8月耐久財受注は前月比+1.0%と、全体の受注額の伸びは前回実績の+11.4%を大幅に下回る見込みです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内では、21日は敬老の日、22日は秋分の日とともに東京市場は休場、23日に「東京ゲームショー2020 オンライン」開催(27日まで)、一方、海外では、24日にEU臨時首脳会議(25日まで)が予定されています。

### RU-RD指標と日経平均（週末終値）



9月11日週	9月18日週	9月25日週	10月2日週
¥23,406.49	¥23,360.30		
29.30%	0.00%	12.90%	-23.10%



## ■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 23614 円～24086 円 (+2%かい離)

下値メド 23078 円～22616 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 28195 ドル～28758 ドル (+2%かい離)

下値メド 27077 ドル～26535 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 105.77 円～106.82 円 (+1%かい離)

下値メド 104.83 円～103.78 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.1885～1.2003 (+1%かい離)

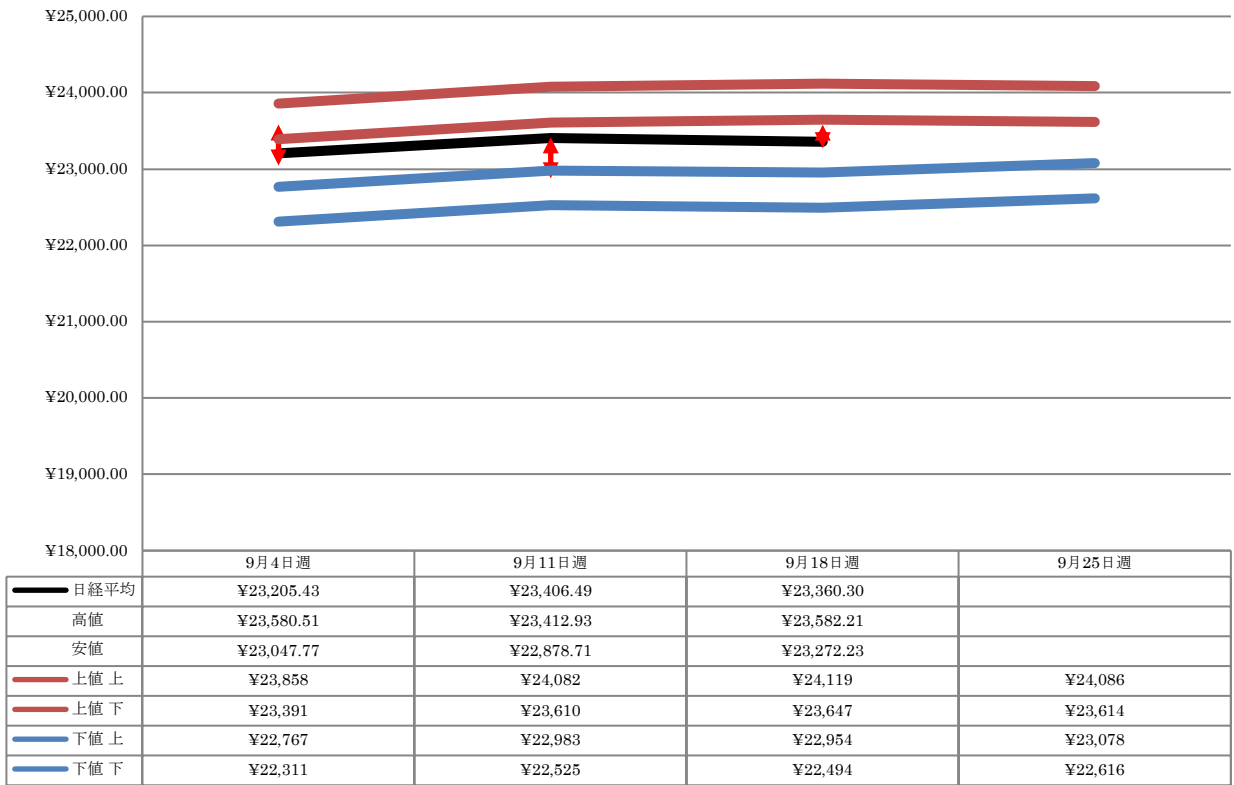
下値メド 1.1688～1.1571 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メド 125.15 円～126.40 円 (+1%かい離)

下値メド 123.24 円～122.00 円 (-1%かい離)

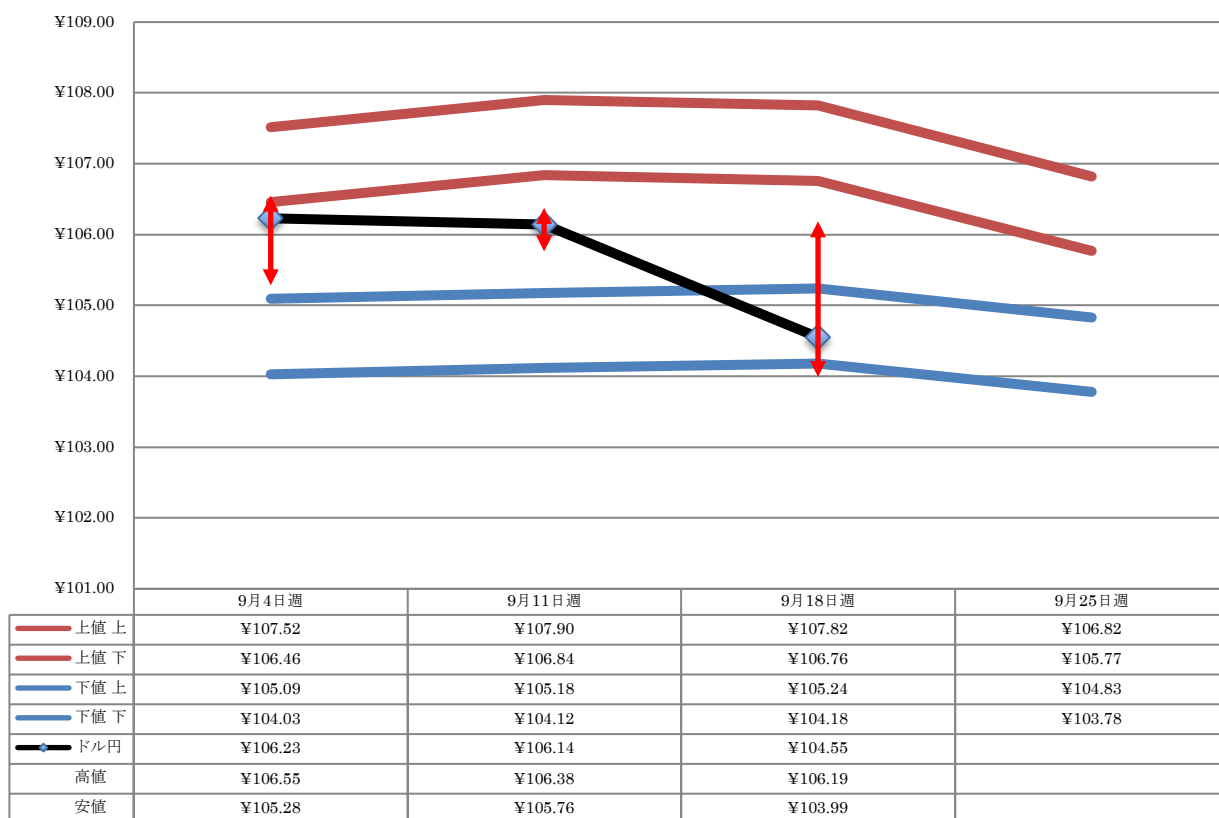
### 日経平均



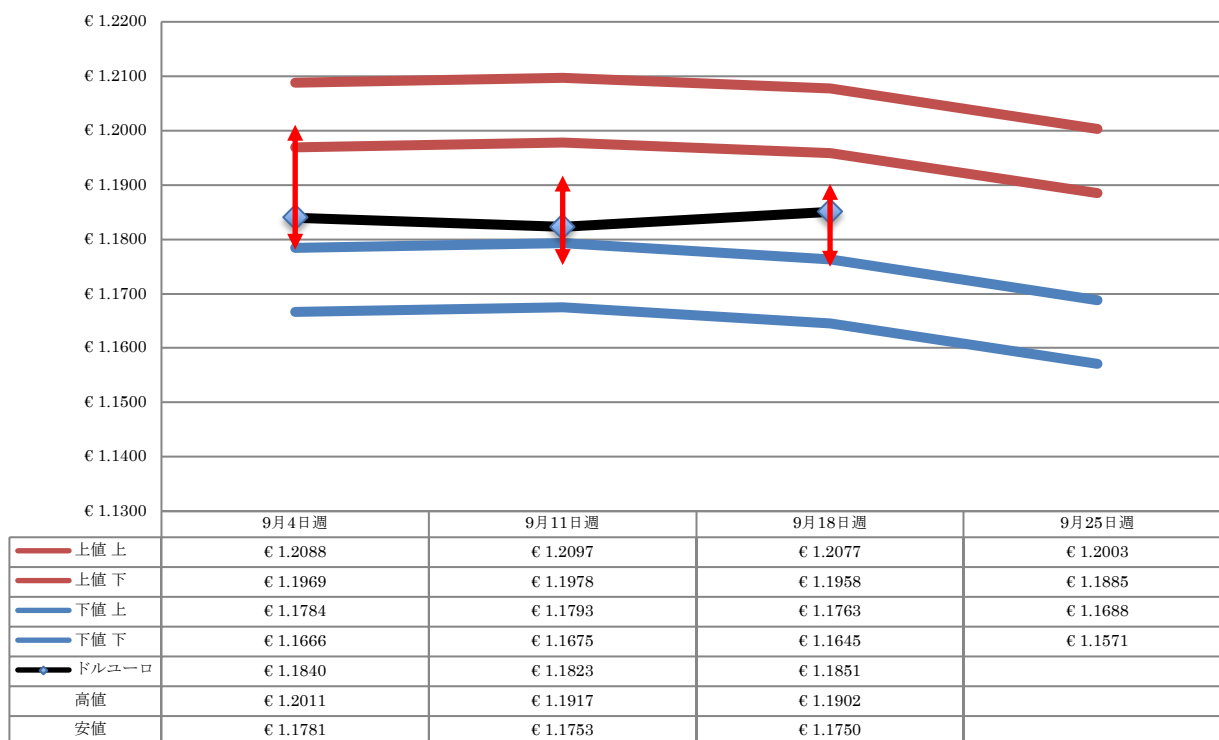
### NYダウ



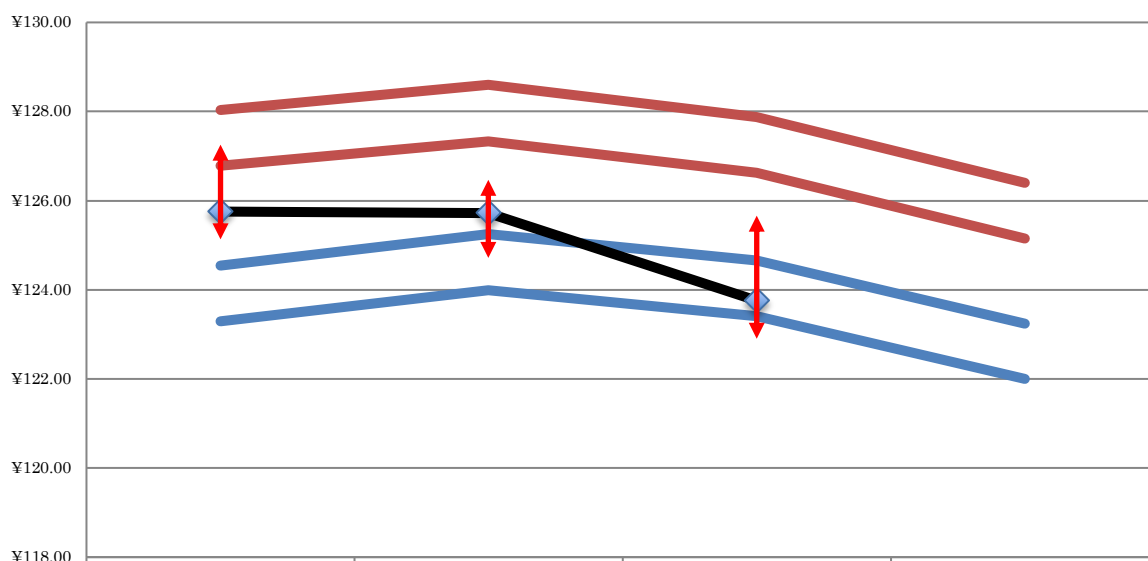
## ドル円



## ドルユーロ



## ユーロ円

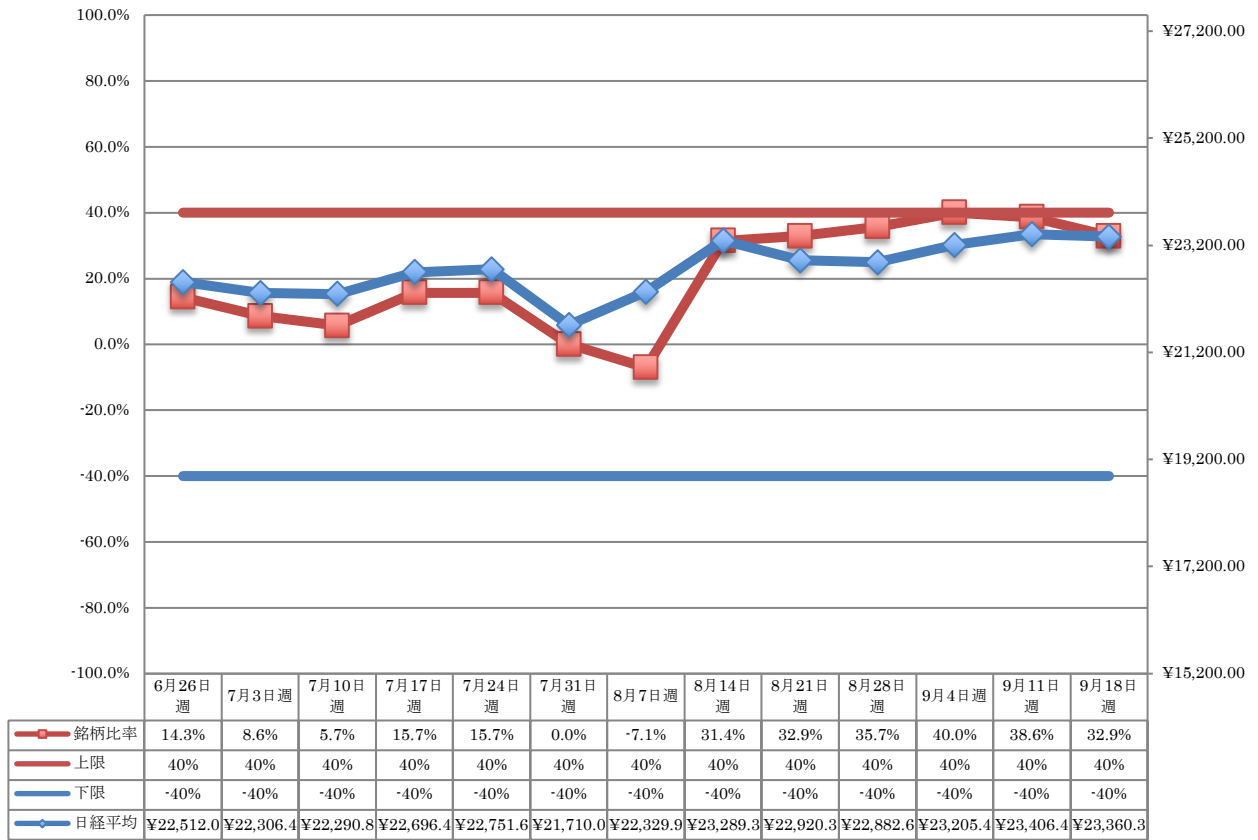


	9月4日週	9月11日週	9月18日週	9月25日週
上値上	¥128.04	¥128.60	¥127.88	¥126.40
上値下	¥126.78	¥127.33	¥126.62	¥125.15
下値上	¥124.54	¥125.25	¥124.66	¥123.24
下値下	¥123.29	¥123.99	¥123.41	¥122.00
ドルユーロ	¥125.76	¥125.72	¥123.76	
高値	¥127.26	¥126.46	¥125.67	
安値	¥125.13	¥124.71	¥122.90	

## ■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、8月7日週-7.1%と10週振りにマイナス圏に陥った後、8月14日週+31.4%→8月21日週+32.9%→8月28日週+35.7%→9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%と、9月4日週に今年1月20日週以来の上限ゾーンを達成後、高水準をキープしています。以前から『この調整が終了するといずれ米国市場を追うかたちで天井圏を示唆する+40%の上限ゾーンを目指す再上昇が予測されます。いつそれが始まるのかを注目する段階に移っています。』と指摘してきましたが、それが実現し、相場の天井形成の入り口に立ったことを示しています。現在は、天井圏形成前の足踏み状態の段階であり、いずれ+40%超の上限ゾーンを突破する近未来が待っています。

### 日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

#### ※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。